

<p>14:00～14:40</p> 	<p>開会ご挨拶 及び 基調講演 江崎 浩 日本クラウドセキュリティアライアンス会長 東京大学大学院教授  <b>「Security by Cloud &amp; of Cloud -- from the cores to the edges --」</b>          セキュリティとして、(1)基盤の運用、(2)サイバー、(3)ポリシー の3つの側面からクラウドセキュリティを整理・議論したい。これは、「デジタル田園都市国家構想」でも議論されている内容であり、データセンタというクラウドの物理基盤が関東に一局集中している状況を(1)基盤運用の観点から、関西および再生可能エネルギー が豊富に存在する北海道、九州にまず分散する施策などがその具体例である。クラウドの物理的基盤であるデータセンターの運用に関する(3)ポリシーの観点から、「地球環境を守る」というセキュリティ である地球温暖化対策としてのグリーンエネルギーの利用が誘導 されることになる。さらに、生成AI/LLM創成は、the cores に集中していた基盤を the edges に分散させることで、3つのセキュリティ を実現する新しい方向が探索されている。</p>
<p>14:40～15:20</p> 	<p><b>CSA本部 講演 Jim Reavis, Co-founder and CEO, Cloud Security Alliance</b>  <b>「Using Zero Trust strategies for responsible generative AI adoption」</b>          In this presentation, Cloud Security Alliance CEO Jim Reavis will provide an overview of different major use cases of generative AI adoption in enterprises. He will discuss the key risks inherent in generative AI with a focus on data governance. The presentation will outline how zero trust provides an optimal strategy for protecting data, maintaining privacy and mitigating risks within AI.</p>
<p>15:20～16:00</p>  Erik Johnson  Jason Garbis  Chris Steffen	<p><b>CSA本部 パネルディスカッション CSA Zero Trust Working Group, Leader Erik Johnson 他</b>  <b>「Artificial Intelligence and Zero Trust」</b>          Artificial intelligence is affecting all facets of Information Technology, and especially security. Understanding where AI fits within security, and how it will impact Zero Trust environments can be overwhelming. Zero Trust Policies drive access to Business Information Systems (sometimes also called the protect surface). AI is a tool that can be utilized in Zero Trust Policies to help support conditional and Just-In-Time access policies.          In this panel discussion, led by Jerry Chapman, the co-chairs of the CSA Zero Trust Working Group, we'll discuss how AI can be applied to Zero Trust policies to improve their effectiveness. We will have several viewpoints across the panel to weigh the options and provide strategic guidance on how to utilize AI effectively within your Zero Trust Policies. With all the questions around where and how to utilize AI within Information Security, this panel discussion will provide you with a meaningful understanding of how to apply AI to Zero Trust.</p>
<p>16:00～16:10</p>	<p>休憩</p>
<p>16:10～16:40</p> 	<p>招待講演 1 瀧澤与一 アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 執行役員 パブリックセクター技術統括本部 統括本部長  <b>「AWSによる発見的統制のベストプラクティス</b>  <b>～ 機械学習や生成AIによる自動分析/イベントの可視化/検出制御と自動対応～</b>          発見的統制により、潜在的なセキュリティ脅威やインシデントを特定できます。これはガバナンスフレームワークの最重要機能であり、品質管理、コンプライアンス、脅威の特定に影響を与えます。AWSを利用すると、監査、機械学習や生成AIによる自動分析やアラート、監視、検出制御を実装できます。本セッションでは、進化するビジネス要件に迅速に対応し、イノベーションを加速するための、セキュリティベストプラクティスを示します。</p>
<p>16:40～17:10</p> 	<p>招待講演 2 河野省二 日本マイクロソフト株式会社 Chief Security Officer  <b>「ゼロトラストのその次へ:サイバーハイジーンのためのマルチクラウド基盤構築の考え方」</b>          サイバーチェーンからのゼロトラスト移行は困難が多く、その目的を忘れた対策を実施している組織も少なくありません。手段としてのゼロトラストが実現したかった本当の目的を振り返り、改めてセキュリティプランニングを行う方法を一緒に考えましょう</p>
<p>17:10～17:20</p>	<p>休憩</p>
<p>17:20～18:30</p>   	<p>パネルディスカッション 「クラウドセキュリティ、発見的統制の今」          クラウドセキュリティはこの2-3年で予防的統制から発見的統制のサービスの拡充と実践策が急速に進化しています。この背景には、クラウドのリスクである設定ミス対策、サイバー空間での攻守の進化があります。この最新動向を知る先進的な活用事例とベストプラクティス、次世代の監査のあり方をテーマにします。</p> <p>パネリスト:  <b>山本教仁 デジタル庁 Chief Cloud Officer</b>          ミニプレゼン 「デジタル庁ガバメントクラウドにおける予防的統制・発見的統制の考え方」</p> <p><b>保坂あずみ PwC リスク・アシュアランス部 マネージャ</b>          ミニプレゼン 「ISMAPと次世代のクラウドセキュリティ評価」</p> <p>モデレーター:  <b>瀧美俊英 日本クラウドセキュリティアライアンス副会長</b></p>
<p>18:30～18:40</p>	<p>閉会挨拶 寺尾敏康 日本クラウドセキュリティアライアンス 代表理事</p>
<p>18:50～</p>	<p>交流会</p>